



## メンバー経験者からの声

「2人に1人ががんになる」「珍しい病気ではない」といわれる現在ですが、がん患者の不安は決して小さくありません。情報社会の今、正しい情報を選ぶことも難しい時代です。こんなときだからこそ、がん患者の体験を共有できる「患者・市民パネル」メンバーの声が、不安な思いをされている患者の方への救いの架け橋になると信じて活動した4年間でした。

北海道・男性

日本全国各地から、がんの種類や立場もさまざまな参加者が集まり、意見を出し合うことができました。がん対策に関する研究の現在地を知るとともに、将来の取り組みに患者や市民からの意見が反映されていくことにやりがいも感じました。グループディスカッションで経験や悩みを共有する中で、自分自身も大きな励ましを受けたことは思いもよらない経験でした。

北海道・女性

配偶者が希少がんになったことをきっかけに、「患者・市民パネル」に応募しました。さまざまな課題を検討し、この活動に参加していなければ考えることも触れることもなかったであろう、多くの深い問題が「がん」の周辺に存在していることに気づかされました。「患者・市民パネル」の活動は、新たな仲間と出会うとともに、がん治療に関して新たな視点や問題意識を獲得・検討・思考できる、またとない機会です。勇気をもって一歩踏み出し、応募してみませんか！

栃木県・男性

エビデンスに基づいたがん情報を周囲に提供したいと考えていた時期に「患者・市民パネル」を知り、応募しました。年に2回ある検討会では、医療における現状の問題点や研究者が考える課題を知り、全国から集まった仲間と、改善についてのグループディスカッションが行われます。グループごとに司会者と発表者の役が割り振られ、勇気を出して務めたことはとてもよい体験となりました。活動で知り合った仲間たちから刺激を受け、私も地元で活動を始めました。同じ気持ちの仲間とつながります。ご興味のある方はぜひご応募ください！

埼玉県・男性

全国では、多くの方がさまざまな活動をしていることを知り、とても刺激を受けました。「患者・市民パネル」に参加し、仲間と出会えたことは、私の宝物であり、これからの活動の大きな力になると思います。少しでも関心のある方は、ぜひ一歩踏み出して参加してみてください。新しい発見や出会いがきっとあると思います。

東京都・女性





がんと診断され、気持ちが揺れる中で治療を始めたとき、その経験がいつか何かの役に立つとは夢にも思いませんでした。経験した人でなければ気づかないことはきっとたくさんあります。多くのがん経験者が集まって一つのテーマについて交わした意見は、やがてよりよい医療にきっと結びつく、検討会はそのような場所だと思います。パネルメンバーは日本各地から集いますので、普段なら会えない方々とも交流でき、多くの刺激をもらうことができます。そして、自分自身の発信力も知らず知らずのうちに伸ばせる結果になると思います。

東京都・女性

がんサロンをボランティアで運営していました。インターネット上のがんに対する誤った情報が多いのに驚いていたとき、「患者・市民パネル」を知りました。活動に参加して、さまざまな意見を聞けたことが、とても参考になりました。「がん情報サービス」の原稿チェックに参加させていただいたことにも感謝しています。患者として意見することで、一般の人が理解しやすいように提案できたのではないかと考えています。この経験を今後の活動に役立てていきたいです。

大阪府・男性

高齢になってからの罹患は、思った以上に精神に不調をきたしてしまいました。その原因が、巷に数多く存在する不確かで根拠の乏しい情報に翻弄されていたからだということを、活動に参加して理解することができました。エビデンスが確立された最新の情報を入手することができ、がんに向き合い学べる環境が魅力です。全国の患者力の高い仲間たちとの交流も、心強い励みとなっています。

広島県・女性

地方に住み、仕事をしながらオンラインの患者コミュニティを運営しています。「患者・市民パネル」を通して、全国各地で活動をしている方々と出会い、交流できる機会はたいへん貴重で、多様な気づきと学びをいただいています。自分たちの活動だけでは、どうしても視野も課題も限定されやすくなりますが、さまざまな経験・立場・活動場所をお持ちの方たちと情報共有・意見交換をさせていただくことで、自分自身の活動に対する再発見やまだ気づけていない現状を多方面にわたり知ることができます。現在のがん領域に関する課題・取り組みから今後のよりよい活動・あり方について検討し、医療者と患者・市民が共創できる場につながっていると感じています。

愛媛県・女性

